

Monthly Report

Vol.159 / 2019 JUL

今年で3回目となるベラルーシ新体操ナショナルチーム公開演技会を開催しました



第2回ヨーロッパ・オリンピック大会で団体総合 金メダルメンバーの演技

7月27日（土）本学第五体育館を会場に東京2020オリンピック・パラリンピック出場とメダル獲得を目指すベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会「SAKURA CAMP2019」が開催され、会場に訪れた700名の来場者は世界トップクラスの演技に魅了されました。

ベラルーシ新体操ナショナルチームは今年6月にベラルーシ共和国ミンスク市で開催された第2回ヨーロッパ・オリンピック大会で団体総合 金メダル、個人総合 銅メダルなど計五つのメダルを獲得するほどの強豪国で、9月に開催される世界選手権（アゼルバイジャン・バグー）では、東京2020オリンピック・パラリンピック出場権の獲得を目指しています。

今回は、第3回目ということで、白石市・柴田町のホストタウン親善大使のマカロワ・マリアさん、セベツ・アリーナさんの企画で、A棟に「がんばれベラルーシ」のロシア語標記ののぼりを掲げるとともに、第五体育館の会場正面には、ベラルーシ共和国の風景写真、民族衣装、第2回ヨーロッパ・オリンピック大会のマスコットなどを飾って、来場した方々に交流の雰囲気を味わっていただきました。

「SAKURA CAMP2019」は7月24日（水）～8月3日（土）まで行われ、本学の他に、白石市や今年4月22日（月）に白石市・柴田町・仙台大学 東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会と協力協定を締結した立川市（東京都）でも事前合宿を行うこととなっています。



カチェリーナ・ガルキナ選手の演技



記念写真

＜ 目 次 ＞

・今年で3回目となるベラルーシ新体操ナショナルチーム公開演技会を開催しました	1・2
・日本野外教育学会第22回大会（宮城）が開催されました	3
・本学教員の髙橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました ・東北地区大学体育大会 14年ぶりに優勝しました	4
・保科 魁斗(体育学科4年)が種目別で優勝 ・スポーツ起業論の授業内容を紹介します ・日本人初NBAドラフト9番目指名 八村 塁選手の御礼（ゴンザガ大学を表敬訪問）	5
・スポーツコードを用いた集中講義を行いました ・ベラルーシ新体操チーム事前合宿に向けたデモンストレーションを開催しました	6
・東京2020ホストタウン親善大使が髙橋副市長（仙台市）を表敬訪問しました ・みやぎ県民大学実施	7
・「健康タウンしばたプロジェクト+2019」がはじまりました ・大学ビーチバレーボール東北ブロック予選会結果	8
・UNLV視察及び米国NATA2019視察報告	9
・今年も学内で熱中症予防を呼びかける ・硬式野球部員3名が、脱輪車を救助 ・第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選優勝!! 全国大会出場決定!!	10
・「仙台大塾」を開講しました ・まるごと募集イベントが実施されました	11
・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学生受入れ ・国際交流：上海体育学院卓球サマースクールに2名の学生が参加しました	12
・「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施	13
・芝草通信 NO. 4	14
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 16 ・V1リーグチームにアナリストとして同行しました	15

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

○ベラルーシ新体操公開演技会の様子



日本野外教育学会第22回大会（宮城）が開催されました

6月21日（金）～23日（日）、日本野外教育学会第22回大会（宮城）が、仙台大学をメイン会場として開催されました。全国・海外から、160名をこえる参加者が仙台大学に集い、東北の歴史や文化、震災時の経験やその復興過程などから学び、野外教育の未来について考える有意義な時間となりました。

金曜日は、エクスカージョンとして貞山堀でのEポートや、先日開通したばかりのみちのく潮風トレイルのウォーキングなどを楽しみました。土曜日の午前中は、会員による自主企画シンポジウムが行われ、「『青少年の野外教育の充実について』の成果と今後に向けた課題」、「野外教育における心理臨床的アプローチ」、「野外教育を体系化する試み」、「東北における自然保育の可能性」など7つの企画が開催されました。

土曜の午後は、基調講演の講師として、震災時国土交通省東北地方整備局長として現場を指揮した徳山日出男氏をお招きし、「災害列島の生きる-東日本大震災の教訓-」というタイトルでご講演いただきました。その後は、「東北の昔・今から、野外教育の未来を考える」というテーマで分科会を開催しました。昔（宮沢賢治の自然観）・今（今を動かす野外の力）・未来（AI社会における野外教育）という3つの視点で、それぞれの知見を深めました。夜はホテル原田にて盛大な懇親会が行われました。

日曜日には35題の口頭研究発表、18題のポスター研究発表、11題のポスター実践報告が行われ、研究や実践についても大いに議論を交わすことができました。今大会から新設された若手優秀発表賞には、本学の高橋徹先生の「デューイの教育的視座からの野外教育の再評価」が選ばれました。高橋徹先生、おめでとうございます！仙台大学から、教員3名（岡田、高橋徹先生、三谷先生）、修了生1名（堀松）、大学院生2名（松谷、渡邊）が発表しました。若手優秀発表賞へのエントリーは最多の4名であり、高橋先生が受賞されたこともあり、「仙台大学でも研究を行っている」と印象付けられたと思います。

すぐれた実行委員会は東北にゆかりのあるメンバー10名で構成されましたが、岡田の他に、柴田卓（本学修了生・本学非常勤講師・郡山女子短期大学）、川田泰紀（一昨年修了・仙台YMCA）、堀松雅博（昨年修了・びわこ成蹊スポーツ大学助手）など、仙台大学関係者が大活躍してくれました。また、岡田研究室の学生10名が、大会運営スタッフを務めてくれましたが、元気で、テキパキ動く学生スタッフは、参加者からも好評でした。

開催にあたっては、朴澤理事長・学事顧問・遠藤学長をはじめ、多大なご支援をいただき、ありがとうございました。学内の施設利用についても、様々な方々に便宜を図っていただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。本学での学会大会開催のノウハウを蓄積することができましたので、今後そのような機会がある場合はお声がけください。学会用の報告書など現在作成中ですので、もし講演内容や発表内容など、ご興味のある方は、岡田までお声がけ願います。

<報告者：岡田成弘准教授>



日本野外教育学会第22回大会で、本学教員の高橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました

6月22日（土）、23日（日）に日本野外教育学会第22回大会が開催され、本学教員の高橋徹講師が若手優秀発表賞を受賞しました。

題目

「デューイの教育論的視座からの野外教育の再評価」

日本野外教育学会にて若手優秀発表賞を頂けたことを大変光栄に思います。

今回の発表内容は、野外教育の発展に思想的な影響を与えたとされるアメリカの教育哲学者J. デューイの教育理論を読み解くことで、野外教育の社会的意義を明らかにするというものでした。

自分自身が専門としている領域とは異なる学会での発表ということで不安もありましたが、学会員の皆様にはあたたかく迎え入れて頂き、ご指導・ご助言を頂きました。今回の学会で得た経験が、新たな研究の方向性を見出すきっかけにもなったように感じます。

今回の受賞を励みにし、今後より一層真摯に研究活動に取り組んでいきたいと思ひます。



左から高橋 徹 講師、野外教育学会理事長の星野 敏男 様



女子バスケットボール部：東北地区大学体育大会 14年ぶりに優勝しました

6月28日（金）～30日（日）に東北地区大学体育大会が行われ、14年ぶりに優勝しました。今大会は本学が試合会場だったこともあり、いつもに比べ練習してきた成果を十分に発揮できたと思います。大会中は後半戦になるにつれ、厳しい戦いになりましたが、私たちの持ち味の声を出し続け、最後まで気を張って集中したことが優勝に繋がり、自信となりました。

今後は、第95回天皇杯・第86回皇后杯 全日本バスケット選手権大会や第20回東北大学リーグ戦の大会があるので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



・1回戦

仙台大学 97 (32-9 21-21 21-12 23-12) 54 弘前大学

・準決勝

仙台大学 88 (24-12 27-11 20-22 17-19) 64 富士大学

・決勝

仙台大学 88 (25-21 24-17 22-22 17-11) 71 八戸学院大学

<女子バスケットボール部>



集合写真



大会中の様子



ウエイトリフティング部：令和元年度第47回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 男子109kg級 保科 魁斗（体育学科4年）が種目別で優勝！トータルでも準優勝！

6月28日～30日に第47回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会が開催されました。

男子は、109kg級 保科魁斗(4年)が種目別クリーン&ジャーク競技で優勝、トータルにおいても準優勝、61kg級 戸嶋響愛(2年)がトータル4位、橋本豊夢(2年)がトータル8位に入賞しました。

大学対抗戦で普段の試合よりも緊張感がありましたが、その中でも学生たちは奮闘してくれました。結果詳細につきましては、以下の通りになります。

【男子】

・61kg級	戸嶋 響愛 (2年)				
スナッチ	4位入賞	クリーン&ジャーク	4位入賞	トータル	4位入賞
・61kg級	菊地 亮雅 (1年)				
スナッチ	11位	クリーン&ジャーク	9位	トータル	9位
・67kg級	叶野 龍聖 (1年)				
スナッチ	10位	クリーン&ジャーク	9位	トータル	9位
・81kg級	松浦 涼太 (2年)				
スナッチ	9位	クリーン&ジャーク	10位	トータル	9位
・89kg級	橋本 豊夢 (2年)				
スナッチ	8位入賞	クリーン&ジャーク	6位入賞	トータル	8位入賞
・109kg級	保科魁斗 (4年)				
スナッチ	3位	クリーン&ジャーク	優勝	トータル	準優勝

団体戦 第9位

<報告：ウエイトリフティング部>



写真左：保科 魁斗 選手（体育学科4年）

スポーツ情報マスメディア学科： スポーツ起業論の授業内容を紹介します！

スポーツ情報マスメディア学科では、本年度もLC棟1階でスポーツ起業論（2年生・前期選択科目）を開講しています。この科目は、アナリスト、メディアディレクター、スポーツカメラマン、チーム広報担当者などをゲストスピーカーとして招聘し、講師の方々の体験談から多様なものの見方や考え方を学ぶことを目的としています。

6月20日（木）は、株式会社スマートスポーツエンターテイメント代表取締役の原口攻太さんをお迎えして授業を行いました。原口さんは34名の受講生に向けて「現在の業務を通じた社会課題への挑戦」、「スポーツにおけるメディアと広報の役割」、「アイデアと企画力の大切さ」などを伝えてくださり、学生たちはスポーツ現場の広報とマネジメントについて知見を深めました。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



株式会社スマートスポーツエンターテイメント代表取締役の原口攻太さん

日本人初NBAドラフト9番目指名 八村 塁選手の御礼（ゴンザガ大学を表敬訪問）

朴澤理事長・学事顧問が7月15日（月）、米国のゴンザガ大学を訪れ、NBAドラフトで日本人で初めて9番目指名された八村塁選手の学生生活などについて同大関係者と懇談しました。八村選手はご存知のように本学併設の明成高校からゴンザガ大学に進学。3年間NCAAトーナメントなどで活躍した逸材です。

朴澤理事長・学事顧問はゴンザガ大学の学長やヘッドコーチらと会い、「八村選手が成長できたのは皆さまのおかげです」と感謝の意を伝えました。ゴンザガ大学側からは八村選手の人柄の良さを称賛する言葉が多く聞かれ、話が弾みました。

懇談では、朴澤理事長・学事顧問から八村選手の高校時代の勇姿が写真として刻まれた雄勝石の記念品を関係者に贈呈し喜ばれました。



スポーツ情報マスメディア学科：スポーツコードを用いた集中講義を行いました



講義中の様子

スポーツ情報マスメディア学科3年次に開講している「スポーツ情報戦略論演習A（前期選択科目）」は、情報を戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキルを身につけることを目的としています。本年度は前半にダートフィッシュ、後半にスポーツコードを用いて一連のパフォーマンス分析活動に取り組むなど、実践的に学びを深めています。

7月6日（土）は、日本総代理店としてスポーツコードを取扱う有限会社フィットネスアポロ社から川口雄大さん、松平竜馬さん（本学科8期生）、hudl社から高林諒一さんにお越しいただき集中講義を行いました。この日はゲスト講師の方々に、基礎的スキルの確認と受講生ひとりひとりの分析テーマに応じた個別指導をしていただきました。受講生は今月17日（水）の分析発表に向けて、操作面だけでなく様々な競技の活用事例等も積極的に質問し、自身の分析に活かしていました。

※スポーツコードとは

アメリカのhudl社が提供するソフトウェアで、分析項目をカスタマイズすることができる。NBAでは30チーム中29チーム、サッカープレミアリーグでは全チームで活用されている世界標準のゲーム分析ツール。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>

SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿に向けたデモンストレーションを開催しました

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた「SAKURA CAMP2019 ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿」を盛り上げる為、本学新体操競技部と白石市・柴田町のホストタウン親善大使であるマカロワ・マリアさんと、セベツ・アリーナさんが7月4日（木）柴田町立槻木中学校、7月5日（金）柴田町立船岡中学校で新体操やベラルーシの魅力を伝えました。

○7月4日（木）柴田町立槻木中学校



フープとクラブを使った演技の様子



7月27日（土）本学で開催するSAKURA CAMP2019 公開演技会を紹介しました



マカロワ・マリアさんがベラルーシについての質問に答える様子

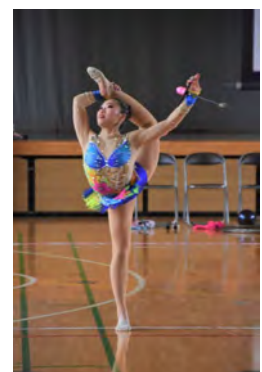
○7月5日（金）柴田町立船岡中学校



ボールを使った演技の様子



体験会でフープを紹介するマカロワ・マリアさん



クラブを使った演技の様子

東京2020ホストタウン親善大使のマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが高橋副市長（仙台市）を表敬訪問しました

本学が招聘し、ベラルーシ新体操チームを応援することを目的として、白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使であるマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが7月9日（火）、宮城・ベラルーシ友好協会長 天江 新六郎 様、遠藤 保雄 学長、青沼 一民 副学長とともに高橋 新悦 副市長（仙台市）を表敬訪問しました。

はじめに遠藤 学長がマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさん及びベラルーシ共和国と新体操の歴史について紹介され、「ミンスク市と縁がある仙台市の皆様にもベラルーシ新体操ナショナルチームを応援して頂きたい」と話しました。

次にマカロワ・マリアさんは「今年で3回目のSAKURA CAMP2019が白石市・柴田町で行われ、27日には本学で公開演技会を開催します。是非皆さん来てください」と紹介され、高橋 副市長は「1976年からミンスク市との交流があります。機会がありましたらSAKURA CAMP2019を是非見に行きたいです」とお話し下さいました。今年の「SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿」は7月24日（水）から8月3日（土）まで白石市ホワイトキューブと本学で行われ、7月27日（土）には本学第5体育館で公開演技会を開催します。皆様、是非お待ちしております。



写真 左3番目からマカロワ・マリアさん、高橋副市長、セベツ・アリーナさん



7月24日から行われる「SAKURA CAMP2019ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿」を紹介する様子



運動栄養学科：みやぎ県民大学実施



カルシウム満点メニューを作る様子



骨粗鬆症予防について学ぶ参加者

みやぎ県民大学が7月13日（土）、本学の運動栄養学科が協力して本学で開催されました。

「家族の栄養について考えよう」がテーマで、成長期の子どもや骨粗鬆症予防のために必要なカルシウムについて学びました。

参加したのは仙南地方を中心に小学生を持つお母さんたち。「孫のために頑張ろう」とおばあちゃんたちもエプロン姿で加わっていました。子どもを含めると総勢12人。じゃこ入りピザやミルクポテトサラダといった「カルシウム満点メニュー」を作り、名コックぶりを発揮しました。

子どもたちからは「いつもは食べられないお野菜も今日は残さず食べたよ」と満足そうな声が聞かれました。
＜報告：運動栄養学科＞

「健康タウンしばたプロジェクト+2019」がはじまりました



開校式後、健康運動教室で体を動かす様子

7月14日（日）LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト+2019」の開講式と第1回目となる健康運動教室を開催いたしました。「健康タウンしばたプロジェクト+2019」は昨年度に引き続きスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学に委託を受けた事業になります。

本事業は、大学トレーニングセンターなどを開放し、運動初心者から経験者まで、幅広い対象者の運動指導を行い、運動やスポーツに関心がない方、関心はあるが始めるきっかけが無い住民を対象に気軽に参加できる環境を整え、運動を始めるきっかけづくりや運動の継続を促します。また、柴田町内にある企業のビジネスパーソンを対象に、働きながら健康運動・スポーツ効果を生み出すプログラムをご提案します。

「健康タウンしばた」の各プログラムを実施するにあたり、健康づくり運動サポーターをはじめ、学生も参加しております。参加者と会話などの関りから楽しい時間を共有し、「運動は楽しい」「続けてみようかな」と感じてもらえるようサポートや運動指導もおこないます。

体育系大学としての専門的な知識や技術を活用し、柴田町民の運動実施率が向上し、健康な町づくりに発展できるよう今後とも尽力して参ります。

<報告：田中 亨 新助手>

男子バレーボール部：大学ビーチバレーボール東北ブロック予選会結果

7月14日（日）にビーチバレーボール・ジャパン・カレッジ2019兼第31回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会、東北ブロック予選会が仙台大学ビーチバレーボールコートにて行われ、男子バレーボール部からは10組のペアが出場しました。

2回戦

渡邊・目黒ペア 13-21 佐藤・平野ペア
三上・大関ペア 21-18 國府田・十文字ペア
中澤・村上ペア 21-16 篠坂・谷田ペア（ビーチバレー部）
鈴木・時庭ペア 21-12 高橋・黒須ペア

準決勝

三上・大関ペア 20-22 佐藤・平野ペア
鈴木・時庭ペア 21-14 中澤・村上ペア

決勝

鈴木・時庭ペア（10-21、21-16、11-15） 佐藤・平野ペア



鈴木・時庭ペア

多くのペアが1回戦を突破し三上・大関ペア、中澤・村上ペアが3位、鈴木・時庭ペアがフルセットまで持ち込みましたが準優勝という結果になりました。

準優勝した鈴木・時庭ペアは8月6日から行われる川崎市にて行われる全国大会に出場します。

次の大会は7月21日（日）に多賀城市総合体育館にて天皇杯宮城県予選です。この大会でも良い結果を残し東北予選へとつながっていきたいです。今後も仙台大学男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。

<報告：男子バレーボール部>



開会式の様子

UNLV（ネバダ大学ラスベガス校）視察及び米国NATA2019視察報告

【UNLV視察】

6月24日（月）アスレティックデパートメントの現状調査のため、ヘッドアスレティックトレーナーのKyle Wilson氏に話を伺った。

大学はDivision I のマウンテン・ウェスト・カンファレンスに所属し、アスレティックデパートメントにスタッフ約200名、学生アスリート約500名が所属している。メディカル部門には、常勤ドクター1名、有資格アスレティックトレーナー13名、ストレングス&コンディショニングコーチ4名、その他スポーツ栄養、スポーツ心理の専門スタッフらが配置されサポートチームを形成している。2020年よりプロスポーツNFLのオークランド・レイダースが拠点をネバダ州ラスベガスに移転するため、UNLVのアメリカンフットボール部と共同で使用するスタジアムを建設中である。

アスレティックデパートメントの予算は年間約40億ドルが組まれており、これらの財源は大学間の競技スポーツの入場料、その試合に対する放映権料、一部州政府からの補助・大学からの補助から成り立っているとのこと。支出はアスレティックデパートメントのスタッフ人件費（AD局長とその下に13部局の職員、また17の部活ヘッドコーチその他のコーチ陣等）、遠征費、学生アスリート500名中、400名がスポーツ奨学生であり彼らに対する奨学金（ただし、学業成績不良者はその対象外となり得る）、ATの活動に必要な経費、器具・機器・施設整備費等に充てられている。

学生アスリートの現状としては、各クラブでの競技力向上のための厳しい練習に加え、NCAAのルールに従い一定の学力を維持しなければ競技参加が認められない。この「文武両道」の基準を達成するために、チュータリングのシステムも導入している。



【米国NATA2019視察】

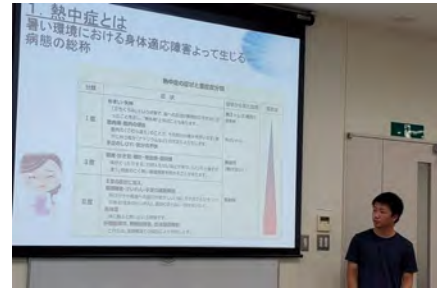
6月25日（木）～27日（金）米国NATA2019総会では、教育プログラム内容の変容が大きな話題であった。2020年までに学部レベルで存在していたアスレティックトレーニング教育プログラムは、全て大学院レベルに移行される。また、その先のステップアップとして、現場経験5～6年の者を対象とした、ドクターレベルの学位である、DAT（Doctor of Athletic Training）プログラムが近年開始されている。目的としては、将来的にアスレティックトレーナーの専門知識を高め、給与や地位の改善を狙っているようである。

アスレティックトレーニングの教育プログラムはCAATE（The Commission on Accreditation of Athletic Training Education）という組織によって統括され、そのCAATEが2020年より適用される新しいスタンダードを発表した。その内容は、今までのプログラムと異なる点が多くあり、今回の2019NATA総会のプログラムにも、関連コースが多く含まれていた。例えば、縫合方法、点滴、脱臼の整復、骨折時のキャスト（ギプス）方法などである。2020年以降は、教育プログラムにこれらの内容を含まなければならない、すでに資格を取得し現場で働く者たちへの対応も急がれる状況であった。

最後に、今回はUNIVAS加盟大学として、遠藤学長と共にアメリカ本土のアスレティックデパートメントの一部を視察させていただき、NATA2019総会の年々変化する現状も把握する事ができた。今後の本学のスポーツ環境にどのように役立てられるのか、関係者らと共に検討していく必要がある。そして、このような貴重な機会を与えてくださった朴澤理事長・学事顧問を始め、関係者の方々に深く感謝している。

<報告：鈴木のだみ助手>

アスレティックトレーナー部、今年の夏も学内で熱中症予防を呼びかける



熱中症予防の勉強会の様子

毎年アスレティックトレーナー部では、暑さが高まる時期の前に、熱中症予防プロジェクトを行っており、6月19日（水）20日（木）に学内部活動に向けた熱中症についての知識をおさらいする勉強会を開催しました。

参加者からは、特に飲み物についての熱心な質問を受けるなど、とても有意義な時間となり、部活動に向けた勉強会の発表を担当した金子茂樹（体育学科2年）は、「昨年高校生のバスケットボールキャンプを手伝った際に、間近で選手が全身の熱けいれんになっているのを見ました。ATの役割としてこのような選手を減らしたいと感じ、そのための一歩として部内外に向けた勉強会を充実させていきたい」と意気込みを話してくれました。

また体育館やクラブハウス、トイレ内などに熱中症予防を呼びかけるポスターを掲示し、日々のWBGT（暑さ指数）・気温・湿度を計測・掲示しています。この大学にいと、「熱中症」という言葉を目にする機会が多いと思います。熱中症は毎年ニュースでも話題になりますが、人は暑さを忘れると熱中症のことも忘れてしまうため、毎年暑さがひどくなる前に、学内の人々に熱中症について思い出してもらおう事がまず大事です。今年の夏も、皆が万全な体調で乗り切れるよう、アスレティックトレーナー部は注意を呼びかけます。

<報告 鈴木のぞみ助手>

<お手柄>硬式野球部員3名が、脱輪車を救助

7月12日（金）、本学前の交差点付近の道路縁石に1台の車が乗り上げ、立往生。その際、硬式野球部員3人<柿澤 郁也さん（体育学科4年）、今津 涼さん（体育学科3年）、川村 友斗さん（体育学科2年）>が一致協力して救援しました。

本件については、学内でも話題となり、7月31日（水）、遠藤保雄学長から3人に対し、表彰状と副賞及びお誉めの言葉を頂きました。また、仙台大学六大学野球 秋季リーグ戦でも大いに奮起するよう激励されました。

<学生生活室>



左から川村さん、遠藤学長、今津さん、江尻教授

サッカー部：第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選優勝!! 全国大会出場決定!!

第43回総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北予選

7月20日（土）会場 利府町：みやぎ生協めぐみ野サッカー場A

仙台大学 対 富士大学(11:00キックオフ)

◇試合結果 仙台大学5-0富士大学(前半2-0・後半3-0) 得点者：岩渕3、松尾2

◇キャプテン嵯峨からのコメント

総理大臣杯東北予選優勝することができました。全国大会もチーム一丸となって戦います。応援ありがとうございました。

◇ハットトリックを決めた岩渕から

結局岩渕が点を取る。そうなれるようにもっと頑張ります！応援にきてくれた仲間に感謝します。



集合写真

柴田町トップアスリート事業：「仙台大塾」を開講しました



学習をサポートする本学学生の様子

7月23日（火） LC棟フロアを会場に未来先生「仙台大塾」の開講式が行われ、青沼一民 副学長、船迫邦則 柴田町教育長、浅間郁雄 校長会代表（槻木小学校 校長）、柴田町内小学校校長先生、小学5.6年生約150名の児童が参加しました。

この事業は柴田町内の小学校に通う児童を対象にして行われている「柴田町トップアスリート事業」の一環として開催されたもので、児童の個性や能力を十分発揮し、自らの夢を叶えられるよう、学習習慣の定着を図ることをねらいとして支援活動を行います。

開講式では、青沼副学長から「仙台大塾が開催される6日間と一緒に頑張りましょう」との激励の言葉がありました。また、本学学生を代表して健康福祉学科3年生の及川和香さんは「少しでも自分の為になるような勉強をして欲しいと思います。分からないことがあれば、何でも聞いてください」と力強い言葉で語っていました。

開講式後は各教室に分かれ、教員を目指す本学学生13名が学習サポート役として夏休みの課題に取り組みました。仙台大塾は7月23日（水）～7月31日（水）まで、6日間行われました。

自衛官・警察官 まるごと募集イベントが実施されました



7月25日（木）先週から続いていた曇り空が嘘のように晴れ上がり、気温がぐんぐん上がり続ける中、学生食堂前にて自衛官と警察官の募集イベントが行われました。これまでは、宮城県大河原警察署広報ユニット「SAKURA」による警察官募集活動を単独で実施しておりましたが、今回は、自衛隊宮城地方協力本部大河原事務所のご協力を得て、更にパワーアップしての開催となりました。

今回は、パトカーの他に白バイが本学初登場ということで、バイクに跨っての写真撮影が人気の的でした。また、自衛隊の方では、ジープとバイクの展示および乗車体験を行いました。特に目を引いたのは自衛隊のキャラクターである大きな熊で、迷彩の服をまとい助手席で愛嬌を振りまいていました。

採用試験について詳しい話が聞きたい学生は、個別相談会のコーナーへと進み、真剣な表情で説明に耳を傾けておりました。本学では公安系の公務員に例年40名前後の者が就職しております。

今後も入試創職室では様々な形で学生を支援していきます。

<報告：入試創職室>



カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学生受入れ

7月8日（月）～7月19日（金）にカリフォルニア州立大学ロングビーチ校より留学生5名が短期研修を行い、AT（アスレティックトレーナー）やS&C（ストレングス&コンディショニング）の資格を日本でどのように活かしているかを学びつつ、調理実習、柔道・剣道などの特別講義を受講しました。

その他、西住小学校では給食や清掃の体験をしたり、在仙プロ球団の試合観戦、温泉体験、被災地訪問など日本の文化に触れました。休日にはマーティ・キーナート シニアアドバイザーの招待で本学の学生とBBQをし、楽天イーグルスでコンディショニング部アドバイザーをされているジェフさんに特別レクチャーをしていただくなど貴重な時間となりました。

お忙しい中、特別授業をしてくださった先生方ありがとうございました。

<報告：国際交流センター>



国際交流：上海体育学院卓球サマースクールに2名の学生が参加しました

6月27日（木）～7月24日（水）本学の国際交流協定校である中国上海体育学院にて、卓球競技のサマースクールが行われ、同学院の国際教育学院および卓球学院からの招待を受け、本学から卓球部所属の長谷川拓人さん（健康福祉学科4年）と鈴木彩香さん（体育学科3年）の2名が参加しました。

本プログラムへの参加は今年で3年目となり、中国国技の卓球を通して、国際交流を発展させることを目的に、上海市当局の支援の下で上海体育学院が主催して実施されています。プログラムの内容は、他の国からの参加者や現地学生との卓球練習だけでなく、中国語、中国書道、伝統切絵、雑技の鑑賞などの多彩な文化体験により構成されています。参加した2名の学生は1ヶ月という短い滞在期間でしたが、中国卓球の精神と技能、中国文化に触れることができた良い機会となり、今後の成長につながるものと確信しています。

7月10日（水）～7月14日（日）には高橋仁副学長、馬佳濛准教授が引率を兼ねて上海体育学院を訪問し、上海体育学院の王副院長をはじめとする幹部の方々と面会し、本学との交流をさらに発展させていきたいとの体育学院側の意思を確認することができました。また施設視察では、卓球博物館や武術博物館、ゴルフの練習場や屋内陸上競技場、トレーニング室や各種測定機器など、施設設備の充実ぶりが際立っている印象を受けました。

今回の訪問により本学の国際交流がより一層活性化されるものと期待されます。

<報告：馬佳濛 准教授>



「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施



7月17日（水）学生支援センター前にてキャンパスライフサポートグループによる仙台大学の学生や留学生たちの交流活動が行いました。キャンパスライフサポートグループとは学生支援センターにある組織の一つであり、「大学生活に不安を持つ学生へのサポートを行うことを目的に、友達を増やしたい、他学年や他学科を超えた人間関係を築きたい、より充実した学校生活を過ごしたい」などの思いを抱いた学生が集まり、人間関係の構築と日々の生活の充実を目的に活動している。活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行っています。

今回から留学生も一緒にキャンパスライフサポートグループで活動し、学生109名、留学生14名、教職員14名、合計137名が参加しました。みんなで体を動かし交流を深める「スポーツの部」では、終始笑顔が絶えず、楽しそうに水風船とバレーボールに取り組む学生の姿が見られ、夏の定番メニューを作り、楽しい時間を過ごすことを目的とした「食の部」では、かき氷と焼きそば作りを行い、簡易な調理による共同作業を通して、学生同士のつながりやかかわりを深めることができました。活動の情報を聞きつけた学生たちが足を運び、嬉しそうにかき氷や焼きそばを頬張るなど、はじめて出会う学生たち同士でも国境や学年を越えて交流する姿が見られました。

本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、一緒に活動することでサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。今後も多くの学生が参加できる活動を行っていくので、是非多くの学生にキャンパスライフサポートグループの魅力に触れてほしいと思います。今回の活動を通して、主体的に取り組む学生の姿が見受けられ、今後の活動が楽しみです。

〈報告：学生支援室 廣谷珠奈臨時職員〉

天然芝生の刈高は？

長い間刈込みをしないで、伸びてしまった天然芝生を一度に短く刈落とすると【軸刈】になってしまいます。芝草の根の伸長は止まり、養分を作る葉が無くなるので、再生や回復が遅くなり場合によっては枯死する危険が高くなります。芝草はどんどん背が高くなってきますが、そのとき葉だけでなく茎も伸びるため、短く刈りこむと、芝草の葉だけでなく成長点のある茎の部分まで一緒に切り落としてしまいます。これが【軸刈】です。実際に伸びている芝草は、一度にどれくらいの高さまで刈り落とせるかが決まっています。芝草の茎葉の上から3分の1まで一度に刈り落としても、その後芝草の回復に悪影響しない高さの限度を示したものを＜3分の1法＞と言っています。3月から4月頃に行なってしまった場合なら、芝草に蓄えられた前年の養分によって芝草の再生を期待出来ますが、7月以降だと貯蔵養分が少ないうえに光合成を行なう葉が刈り取られているため、再生力は極端に低下してしまいます。刈込みは芝草があまり伸びないうちに行い、もし伸ばしてしまった場合は、一気に低く刈込むのではなく、徐々に時間を掛けて低くしていくようにします。

【軸刈】の英語表記は、Scalpingと言います。芝生の緑の葉の部分のを剥ぎ取り、黄褐色の茎だけになる様な極端な低い刈り込みを言い、「頭皮をはぐ」という意味から来た言葉です。

1. 噴水周り天然芝生（Putting Greenを含む）の＜7月に行なった管理＞は草刈と肥料散布を行いました。
2. 第二グラウンド、天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の＜7月に行なった管理＞は草刈を毎週1から2回、バーチカルカッターによる余分なサッチ除去、（播種作業の事前作業）とスワイパーによる除去したサッチ回収、暖地型芝草バミューダグラス播種、目砂散布、肥料散布を行いました。

夏季の異常高温気象時期における散水量の不足による寒地型芝草（ペレニアルライグラス・ケンタッキーブルーグラス・トールフェスクの衰弱や枯死に対応して数年前から暖地型芝草（バミューダグラス）をSummer Over-Seeding（現存する芝草と違う草種を上から播くこと）してきました。最初はグラウンドの1/4の面積に実験的に播種し様子を見ながら全面に移行して、今年は前年からの芝草も生きているので4g/m²を播種しました。当初2週間の養生期間を設け各部活動の部員に使用制限（ラグビーの授業のみ制限なし）を行い協力していただきましたが、7月上旬の降雨により作業が遅れたことと低温による発芽遅れもあり、3週間の養生となっています。梅雨明けの暑い季節には、発育も旺盛になり全面バミューダグラスで覆われて、従来の利用が可能になります。



＜写真 1＞バミューダグラスの播種状況 ＜近景＞
黄変した葉は高温により衰退した寒地型洋芝、緑色の葉は高温に適応している前年の暖地型洋芝バミューダグラス



＜写真 2＞新しい種子の発育状況を観察 ＜接写＞
昨年の芝生の手前のボールペンの先に群生しているのが今回の芝生の芽

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 16

担当：白坂 広子 助手

○第4回明成フェスティバル！

6月29日（土）、30日（日）、7月6日（土）、7日（日）に「第4回明成フェスティバル」が開催されました。明成フェスティバルとは運動部活動が県内の中学生チームを招待し、練習試合を通して明成高校の魅力をアピールし生徒募集につなげていくことを目的としています。今年は運動部のみにとどまらず、調理科は昼食の提供をし、介護福祉科は手話で歌を披露したりと、学校全体をあげてのイベントとなりました。女子バスケット部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、剣道部、男子サッカー部、女子サッカー部、そしてソフトボール部が4日間に渡り多くの中学生と試合を通して交流しました。川平ATとS&Cはブースを設置し、試合中の怪我対応や過去の怪我、健康、トレーニングなどについての相談等に対応しました。来年度から明成高校は仙台大学の付属高校としてスタートします。カリキュラムも変わり、健康スポーツコースは「スポーツ創志科」へと生まれ変わります。これにより今までよりも高大連携事業の発展が求められ、多分野での7年間教育が課題となってきます。このような背景から、今回たくさんの中学生と関わった活動は、ブース周囲で楽しそうに活動に興味をもって熱心に見ていた中学生のためにAT分野の普及と発展に尽力していこうと思った時間となりました。



男子バレーボール部：活動報告 V1リーグチームにアナリストとして同行しました

男子バレーボール部で、アナリスト兼コーチとして活動している中釜智哉さん（スポーツ情報マスメディア学科4年）が7月5日（金）～7月7日（日）に神奈川県で行われた2019V・サマーリーグ女子東部大会にV. LEAGUE Division1（Vリーグ）に所属するNECレッドロケッツにアナリストとして同行しました。

3日間という短い期間で試合でのゲーム分析などを通してアナリストとしてのレベルアップを行いました。

前は同じくV. LEAGUE Division1に所属する大分三好ヴァイセアドラーという男子のチームにアナリストとして同行しましたが、今回は女子のチームの分析を行ったことにより新たな視点や考え方が生まれたと思います。

今回の研修で学んだことを本学男子バレーボール部に還元し、チームの更なる強化と本学科の情報分析分野での発展に貢献してほしいです。

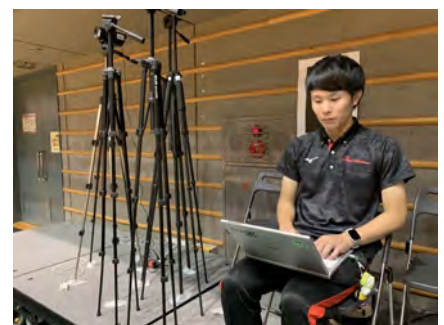
○中釜智哉さんからのコメント

今回Vリーグ Division1に所属しているNECレッドロケッツにアナリスト活動を勉強させていただくために同行させていただきました。

アナリストについてはもちろんですが、それ以外のことで学ぶことがたくさんあり、様々な面で成長することができました。

更に成長できる部分があることも実感したので、今後も成長し続け、部活動で還元したいと思います。

最後にお世話になりましたNECレッドロケッツの方々に心から感謝申し上げます。



中釜智哉さん
（スポーツ情報マスメディア学科4年）

○アナリストとは

バレーボールの「ゲーム分析」と呼ばれる活動を中心に行っている人。技術・戦術を分析してコーチや選手に役立つ情報を提供する。他国や他競技ではスカウトマン、スコアラー、statistician（統計学者）、テクニカルコーチなどと呼ばれることがある。

<報告：男子バレーボール部>